

■ 紙すき体験



- 工程1 和紙の原材料が溶けている液体を専用の器具でくう。水が白く見えるのは和紙の原料が溶けているため。原材料は下に沈殿しているから、とりあえず必死にかきませる。油断していると袖につく。冷たい！
- 工程2 とにかく振る！シェイク、シェイク！意外と重い…
- 工程3 放置
- 工程4 水をきり、原料だけが残ったら枠を外す、和紙の原型が出現。
- 工程5 それを、そっと台の上の用紙に乗せる、慎重にね。
- 工程6 和紙の原料に体重をかけてさらに水を擠り出す×2。一回目の和紙と二回目の和紙がずれないように重ねる。
- 工程7 横に名前を書いた紙を置く。
- 工程8 プレス機で圧力をかけてさらに絞る。
- 工程9 乾燥させる。ブラシをかけて形を整える
- 終了

実は、この紙すき体験中に、偶然、博物館を見学しに来ていた小学生達が寄ってきた。体験をしている仲間を子供たちが目を輝かせながら見ている。子供たちの視線を浴びて、取材班はちょっと緊張気味…。体験する手に心なしか、力が入る。



■ ママチャリで直島



直島では、主な交通手段はバスか自転車だ。取材班は迷わず自転車を選択。風邪をひいた一名（電気自転車）を除いて古いママチャリを借りた。海と潮風を感じながらのサイクリングは、心地よい。止まってただ海を眺めるもよし。坂を下りながら街をながめるもよし。バスでも電車でもない、ゆったりとした自転車旅は今まで見えていなかつた景色を堪能できる。不慣れな土地で迷うのが怖い？そんな心配は必要ない。道に迷いそうになったら、ばったり会った人に聞いてみよう。

雑記帳 in 香川・高知

■ 行き帰りは夜行バス

今回の特集ですが、取材班は夜行バスを使って東京↔四国を往復しました。みなさんは夜行バスというと、安いけれども「狭い」「長い」「キツイ」といったネガティブなイメージを連想しがちでしょう。けど、実は飛行機のアッパークラスを思わせるような、快適な夜行バスもあるんですよ。もちろん、価格はリーズナブルなまま。新幹線でも飛行機でもない新しい旅行手段として「ちょっとリッチ」な夜行バスを利用してみてはいかがでしょうか？

KOTOBUS EXPRESS

—ワンランク上の次世代高速バス—

東京 — 香川 — 徳島

トイレ付独立3列シートバス
SUPER PREMIUM3
旅行代金（大人／片道）
9,200円～11,400円

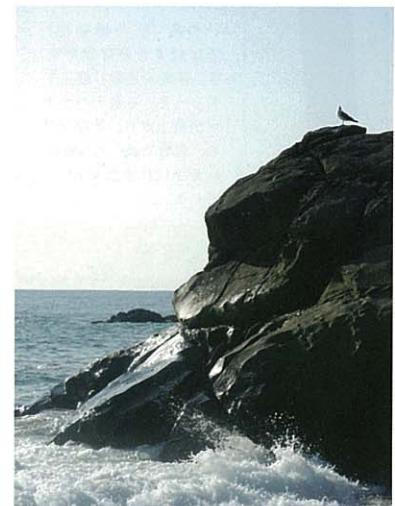


- ・ゆとりある3列シートで、隣を気にせずグスリzzz
- ・かなり後ろまで倒せて、座りごごち〇
- ・清潔なトイレもポイント高い
- ・読書したくなったらライドもあるよ
- ・ドリンクサーバーも
- ・ブランケットで快適な睡眠

■ 桂浜の波を見て



コバルトブルーというよりエメラルドグリーンの鮮やかで澄んだ海だと気づく。朝日に照らされた海は絶景。砂利の海岸に寄せる波、その引き際は、しゅわしゅわと炭酸のようなきめ細かい白波となる。まるでビールの泡のよう。



桂浜にそびえ立つ岩。そんな岩の上に鳥が一羽。近づいても動く様子はない。結局取材して帰るまでずっとそこにいた。その姿はまるで桂浜の主！気軽な旅行では、ふとした動物の動きや様子を眺めるのもグッド。